

6 安全な水とトイレ
を世界中に



14 海の豊かさを
守ろう



下水をきれいにする原生生物の研究

生物資源科学部 准教授 石田 秀樹

石田研究室では、宍道湖東部浄化センターでの下水処理における原生生物の役割や生態を研究しています。日常生活で生じる下水には、有機物や生活排水が含まれており、適切に処理しなければ環境汚染を引き起こす可能性があります。下水処理は微生物の働きを利用して行われており、その中でも原生生物は重要な役割を果たしています。原生生物は単細胞の微小な生物で、アメーバや繊毛虫などの原生生物が細菌を捕食することで細菌量を調整し、水質浄化の効率を向上させています。

宍道湖や中海の汚濁防止においては、原生生物を活用した水質改善技術が生態系の保護に大きく貢献しています。原生生物の種類や数の変化を調査し、浄化プロセスを評価することで、新たな技術開発や効率的な下水処理の実現につながる科学的知見が得られています。持続可能な資源管理と環境保全の観点から、宍道湖や中海を守る鍵として原生生物の研究はますます注目されています。

宍道湖東部浄化センターの原生生物

